

## (2)資産に含まれる文化財

### ①整理表

#### A 自然

番号	名称	保護の主体	保護の種別	面積	所在
1	白山の高山植物帯 はくさんのこうざんしょくぶつたい	(未指定)	(天然記念物)		石川県白山市
<p>【概要】 白山国立公園の特別保護地区であり、国内では4地域(白山、屋久島、志賀高原、大台ヶ原)しか指定されていない、ユネスコの生物圏保存地域である。高山帯には、約250種以上の高山植物が分布し、ハクサンコザクラ等白山の名を和名につけるもの約20種のほか、日本の高山植物の西南限とする種類も数多くある。7月下旬から8月上旬にかけては高山植物が咲き誇り、山の一面がお花畑のようになり、豊かな自然景観を残している。</p> <p>また、白山は南方系の照葉樹林帯と北方系のナラ林帯の境界域にあり、ブナなどの巨樹、巨木が繁殖しており、日本を代表する自然が数多く良好に残される。</p> <p>養老元(717)年に開かれたと伝えられ、白山信仰の霊峰として仰がれ、日本三名山としても知られている。明治7(1874)年に世界的日本学者のドイツ人・ライン博士が白山に登山している。</p>					
2	岩間の噴泉塔群 いわまのふんせんとうぐん	国	特別天然記念物		石川県白山市
<p>【概要】 白色・淡黄色あるいは淡黄褐色の石筍に似た石灰華からなる、高さ数十cmの小突出の塔が、大小かなりの数、基盤岩にくっつき、その頂部から熱湯が、時に高く数m、時に低く数十cm、概して40～100cmの高さまで吹き上げられている。時に虹をさそってほとぼしる噴泉塔の眺めは美しくもあり、また雄大でもある。</p>					
3	手取川流域の珪化木産地 てとりがわりゅういきのけいかぼくさんち	国	天然記念物	247.87㎡	石川県白山市
<p>【概要】 中生代白亜紀前期の地層壁である。この時期の脊椎動物化石の産出は世界的にも例が少なく、学術的評価が高い。この地層から、世界最古の「カガナイアス・ハクサンエンシス」が発見された。</p> <p>1ヶ所から大量かつ多種の動物化石が産出されており、当時のアジア地域における模式的な生態系を示す地層であり世界的に貴重な化石山地として知られる。また、日本で初めて桑島化石壁の植物化石から地質時代を特定したことから、この地域が日本地質学発祥の地として知られている。</p>					
4	石徹白のスギ いとしろのすぎ	国	特別天然記念物		岐阜県郡上市
<p>【概要】 美濃禪定道沿いにある本州最大のスギ巨木で、幹周径約14.5mを測る。白山を開いた<sup>たいちよう</sup>泰澄が植えたともいわれ、古くから「十二抱のスギ」と呼ばれる。なお、指定木脇に今清水社の礎石があり、参詣路の面影を残す。推定樹齢約1,800年。日本の代表的なスギの巨樹として、昭和32(1957)年7月2日に国特別天然記念物に指定された。</p>					
5	御仏供スギ おぼけすぎ	国	天然記念物	1,143㎡	石川県白山市
<p>【概要】 根元周囲約7.6m、高さ約18.7m、枝張りは東方・西方ともに約11.5m、南方12.4m、北方約14.4m、樹被は東西23m、南北27mに及ぶ楕円形で樹高18.7mより枝張りの長さが大きい。南北朝時代初期に禅宗の祇陀寺を開いた大智が植えたと伝えられる。当時、修験場のあった吉野への新興の禅宗進出を示す重要な資産である。</p>					

番号	名称	保護の主体	保護の種別	面積	所在
6	白山神社のカツラ はくさんじんじゃのかつら	県	天然記念物		福井県大野市
【概要】 根周り約15m。下打波の白山神社の鳥居近くの斜面にあり、同神社の神木として保護されている。地上から約2.8mのところでは主幹が多くの支幹に分かれ、主なものでも18本ある。太い支幹は周囲約3.3mある。雄株。					
7	白山中居神社のブナ原生林 はくさんちゅうきょじんじゃのぶなげんせいりん	県	天然記念物	2.7ha	岐阜県郡上市
【概要】 白山中居神社の背後にあり、社地保安の役割を果たす。面積は27,621㎡。幹周4.7mのブナを最大に、約115本を数える原生林として貴重である。ブナ原生林は年々減少の一途をたどる中で、人里に近い白山中居神社境内裏山にこのような原生林があることは貴重である。					
8	白山中居神社の森 はくさんちゅうきょじんじゃのもり	県	天然記念物	2.2ha	岐阜県郡上市
【概要】 白山中居神社は、郡上市白鳥町石徹白の標高740mの地にある。この森は、参道・社殿を取り囲む約2haのスギの大木群である。推定樹齢200～1,000年以上の目通り幹周囲8mから10mの140余本の老木からなる。本殿の左側ならびに後方の数本のスギの目通り幹周囲は、8.9m、8.3m、8.0m、10.3m、7.6mで樹高はいずれも25mから35mである。					
9	石徹白の浄安スギ いとしろのじょうあんすぎ	県	天然記念物		岐阜県郡上市
【概要】 美濃禅定道の間地点に当たる白山中居神社の境内にあるスギの大木である。根元幹周13.6m、目通り幹周12.1m、高さ約35mを測り、樹齢1,200年とも言われる。幹は地上1.8mのところでは2幹に分かれ、ここでの幹周囲は、それぞれ8.0m、6.5mである。さらに、この2幹は、地上3.5m、5mのところではそれぞれ2幹に分かれている。枝張り東11.0m、西14.0m、南12.0m、北13.8mである。かつて、僧が根元に白山参詣の宿坊として貯えた大金を埋めたと伝えられる。					
10	白山神社のスギ はくさんじんじゃのすぎ	県	天然記念物		岐阜県郡上市
【概要】 美濃馬場の長滝白山神社境内にあるスギの大木である。根元の幹周8m、目通り幹周6.1m、樹高40mを測り、樹勢は旺盛である。					
11	阿弥陀ヶ滝 あみだがたき	県	名勝		岐阜県郡上市
【概要】 落差60mを測り、水量も豊富である。白山を開山した泰澄が養老6(722)年に発見し、長滝と呼んで長瀧寺を建立したとの伝承をもつ。その後、天文年間(1532～1555)に長瀧寺の塔頭阿名院の道雅法師がこの滝の岩洞に入って護摩を焚き修行を行ったとき、忽然として阿弥陀三尊の霊像が現れ金色の光を放った。以来この滝を阿弥陀ヶ滝と名付けたという。阿弥陀ヶ滝は葛飾北斎により描かれている。					

番号	名称	保護の主体	保護の種別	面積	所在
12	前谷床並社跡のトチノキ まえだにとこなめしゃあとのとちのき	県	天然記念物		岐阜県郡上市
【概要】 郡上市白鳥町中心部から国道156号線を北へ約7km、床並社跡に建つ石碑から北西約15mに、このトチノキがある。目通り幹周囲5.75m、樹高25m、枝張りは北から南にかけて約20mである。					
13	檜宿の巨木群(越前禅定道) ひのしゅくのきょぼくぐん	(未指定)	(天然記念物)		石川県白山市
【概要】 越前禅定道の第十宿にある檜の巨木群、六万山山頂(1,260m)の近くに位置し、江戸時代前期の絵図にも描かれている。古くから檜の大木群があることから「檜宿」と呼ばれ、巨木が禅定道の霊場の一部とされてきた。					
14	白水の滝 はくすいのたき	県	名勝		岐阜県白川村
【概要】 白山国立公園内の原生林に囲まれた中にある。この流れ落ちる乳白色の水色から「白水の滝」と呼ばれている。天保12(1841)年に開削された飛騨側の平瀬道登山道の道中にあり、白山絶頂を目指す登山者の心を和ませている。高さ72m、滝幅8m					
15	大踏山の水バショウ群生地 おおぐつやまのみずばしょうぐんせいち	県	天然記念物	約500㎡	岐阜県郡上市
【概要】 標高1,000mの大踏山(社地)の湿地に、東西100m、西から中央部の幅4m、東は幅10m、面積約500㎡に及び、帯状に水バショウが群生する。					

## (2)資産に含まれる文化財

### ①整理表

#### B 山麓の人々の暮らし

番号	名称	保護の主体	保護の種別	面積	所在
16	太田の大トチノキ おおたのおおとちのき	国	天然記念物	約1,100㎡	石川県白山市
<p>【概要】 高さ約25m、幹周径約13mで全国一を誇り、樹齢1,300年といわれる。樹勢は旺盛であり、全体の威容は極めて見事である。縄文時代からトチの実は広く食用に供され、飢饉時の非常食でもあった。白山より北の地域ではトチの実のアクを加熱処理している。地域の食文化を語る「歴史の象徴」として非常に貴重である。</p>					
17	旧小倉家住宅 きゆうこぐらけじゅうたく	国	重要文化財	293㎡	石川県白山市
<p>【概要】 江戸時代初期に建てられた土壁造り、栗の小羽板葺き石置きで、登り梁を用いた二階建ての建物である。部材のほとんどはチョンナ仕上げで、雪に強い根曲がり材を使用するなど、古い手法が見られる。厳しい風土に生きた昔の人々の知恵や、白山山頂における信仰を実質的に支えた白峰の山村農家の特色を示す代表的建築である。</p>					
18	旧杉原家住宅 きゆうすぎはらけじゅうたく	県	建造物	1,109㎡	石川県白山市
<p>【概要】 江戸時代末期に建てられた土壁造り、栗の小羽板葺き石置き屋根、三階建て建物である。天領時代には庄屋・組頭を勤めた白峰の旧家の建物で、1棟の建物規模としては県内最大級である。家族や客専用の「上の居間」と使用人専用の「下の居間」があるなど、白山麓の豪家の生活ぶりを知ることができる。</p>					
19	旧織田家住宅 きゆうおだけじゅうたく	県	建造物	708㎡	石川県白山市
<p>【概要】 岐阜県白川の合掌造り建物に対応する白山麓の土壁造り建物である。明治時代初期に建てられた小羽板葺き石置き屋根、三階建ての建物で、代々商業・製糸業等が営んだ白峰を代表する貴重な商家建物である。また、所蔵の古文書、諸道具類とともに、山村における生活、特に産業の推移の状況を知る貴重な資料が残されている。</p>					
20	白峰の伝統的建造物群 しらみねのでんとうてきけんぞうぶつぐん	(未指定)	(伝統的建造物群)	約20ha	石川県白山市
<p>【概要】 白峰集落は、山麓一の大集落である。小規模な河岸段丘の傾斜地に建物が密集して立地しており、土地の高密度利用化が図られるとともに、山間地にありながら町場のような集落が形成されている。</p> <p>集落内の建造物は、天領取次元山岸家住宅に代表されるように、太い構造材を用い、防寒のため厚さ20から30cmもある土壁の大壁造りで仕上げられたものが多い。建物は養蚕の作業場として屋根裏の小屋組が非常に発達している。かつては2階3階を利用し、養蚕が盛んに行われた。</p> <p>集落には真宗の別院1院を含む4寺院のほか、市指定建造物の八坂神社や元和元(1615)年に岩盤を削って造られた約3kmの用水が街の中を流れるなど、世界有数の豪雪地帯である白山麓を象徴する独特な古い町並みを良好に残す。</p>					

番号	名称	保護の主体	保護の種別	面積	所在
21	八坂神社本殿 やさかじんじゃほんでん	市	建造物		石川県白山市
<p>【概要】 文政5年(1822)に上棟された。間口3間、奥行2間入母屋造、正面千鳥破風、向拝1間唐破風付き、柿葺の建物で、建仁寺の和様の流れをくむ。元牛首社と呼ばれ、牛頭天王を祀り、薬師三尊を本地仏とする。</p>					
22	天領取次元山岸家 てんりょうとりつぎもとやまぎしけ	(未指定)	(建造物)		石川県白山市
<p>【概要】 300年前(推定)に建てられた大壁造り、瓦葺き屋根、三階建てであり、山間地にあつて、平野部の豪家の建物を凌ぐ土壁が特徴的な巨大な建物である。寛保2年(1742)から約120年間、白山争論の裁定として、天領地となった白山麓十八ヶ村の取次元を務め、代官所や幕府との交渉を行い、白山麓十八ヶ村の実務を請け負った豪家で、白峰の伝統的建造物群の中核をなす建造物である。</p>					
23	石徹白の伝統的建造物群 いとしろのでんとうてきけんぞうぶつぐん	(未指定)	(伝統的建造物群)		岐阜県郡上市
<p>【概要】 石徹白は、白山麓の美濃禪定道沿いに開けた「御師<small>おし</small>の村」である。日本各地の修験道に関連した山麓集落では、その多くで、宿坊となった民家の大規模化、集落の都市化がみられるのに対し、石徹白は山村としての民家や集落の形態を崩さずに今日に至っている。また、集落内は水路が張りめぐらされ、至るところから水音が聞こえる。これらの水路は、農業用水のほか、洗い場や消雪に利用され、生活に密着してきた。</p> <p>屋敷構えは、敷地が傾斜地にあるので周囲に石を積むことが多いが、門扉や垣柵は構えていない。民家は、一階建て、ツシと呼ぶ物置をもつ二階建て、三階建てなどで、屋根勾配が3～4寸と緩く、庇や軒が短いといった独特の形態をもつ。特に落とし板工法の民家では、柱と柱の間に落とし込んだ壁材の杉板がそのまま外壁となっており、特徴的な外観意匠になっている。民家の間取りをみると、ハクサンノマ(白山の間)やゴシンゼンノマ(御神前の間)など、白山の信仰にかかわる場所をもつことに大きな特徴がある。</p>					
24	白山麓出作りと真宗道場等の景観 はくさんろくでづくりと しんしゅうどうじょうなどのけいかん	(未指定)	(文化的景観)		石川県白山市
<p>【概要】 白峰の出作りは自然と共生した農耕形態であり、山の緩斜面を焼き、稗、粟等を耕作する焼畑農耕を中心に、旧白峰村では最盛期には約300戸の出作り農家があった。現在、出作り農耕は下田原地区で焼畑耕作を行う出作り農家が存在している。下田原地区は標高約710m、落葉樹林に囲まれ、食用植物にも恵まれた所である。昭和30年代には夏期だけ生活する季節出作り農家が25戸あり、現在も焼畑耕作の跡地が良好に残り、出作り生活という特異な山の生活を知ることができる貴重な景観が残っている。また、焼畑農耕は標高300から1,200mの高地で行われている。焼畑の後に雪折れしない種類の山桑を植えるなど、豪雪など気象条件に適応した方法で行われている。他にも白峰の谷々の山中に焼畑・出作り農耕していた跡地が残っている。このように白山麓の出作りの形態は減び行く貴重な農耕形態であり、後世に残す必要がある。</p> <p>白山麓は、蓮如<small>れんにょ</small>が吉崎にきてから熱心な浄土真宗地帯となり、各地に真宗道場がおかれた。道場は、寺号を持たない寺家が中心となり自宅で講をもつもので、民俗学者の柳田国男はその主人を「毛坊主」と呼んだ。尾添では道場の家残り、古くからの山村の道場を中心とした景観が保たれている。</p>					

番号	名称	保護の主体	保護の種別	面積	所在
25	<p>白峰の出作り民家(山の小屋)と生活用具 (旧尾田家住宅部分)</p> <p>しらみねのでづくりみんか(やまのこや)と せいかつようぐ(きゅうびたけじゅうたくぶぶん)</p>	国	重要有形 民俗文化財		石川県白山市
<p>【概要】 標高820mの山中に建てられた永住出作り小屋である。旧白峰の出作り小屋の中でも古い型体に属し、屋根は入母屋の合掌造りで茅葺となっており、西北に面した片側の茅屋根を地面まで延ばした茅屋根を地面まで延ばした根葺く形式であることが特徴となっている。大部分が家族の手により建てられた技術的にも素朴なもので、出作りの原初的形態を今に伝える貴重な建築物である。</p>					
26	<p>白山麓西谷の人生儀礼用具及び民家 (民家部分)</p> <p>はくさんろくにしたにのじんせいぎれい ようぐおよびみんか(みんかぶぶん)</p>	国	重要有形 民俗文化財		石川県小松市
<p>【概要】 民家は旧鳥越の渡津から移築したもので、寄棟造茅葺で、両妻にヒダチ(明り窓)をもつ。雪深い白山麓の社会生活や人生儀礼をうかがわせる一般民家には見られない居住空間(間取り)を示す貴重な民家資料。</p>					

## (2)資産に含まれる文化財

### ①整理表

#### C 白山の信仰

番号	名称	保護の主体	保護の種別	面積	所在
27	白山比咩神社本殿 しらやまひめじんじゃほんでん	市	(建造物)	57.02㎡	石川県白山市
<p>【概要】加賀一宮で 加賀馬場の拠点となる神社施設の本殿。主屋が3間に2間、正面に庇の間があり、向拝がついた三間社流造りの建築物で、加賀藩十代藩主前田重教が明和期(5～7年の間、1768～1770年)に作事奉行に命じ建立されたとされている。大きな木割りで檜とケヤキを使い、大規模で荘厳な建物である。</p>					
28	白山平泉寺旧境内 はくさんへいせんじきゅうけいだい	国	史跡	200ha	福井県勝山市
<p>【概要】越前馬場平泉寺(白山信仰の越前側の拠点、8世紀からの遺跡)。中世には四十八社・三十六堂・六千坊が境内に建ち並び、寺領は九万石・九万貫に達したという。天正2(1574)年には一向一揆の焼き討ちにあい全山焼失。平成元(1989)年度からの発掘調査では、中世宗教都市のものとしては国内最大の遺構が確認されており、中世においても平泉寺が地域の人々に支えられていたことがわっている。また、苔むす境内と石垣遺構に囲まれた周辺の風景は往時を偲ばせる貴重な景観である。</p>					
29	旧玄成院庭園 きゅうげんじょういんていえん	国	名勝	0.1ha	福井県勝山市
<p>【概要】天正2(1574)年の焼き討ち後、平泉寺を再興した玄成院の庭園である。枯山水様式の庭園であり、室町幕府管領の細川高国が作庭したと伝えられる。</p>					
30	長滝白山神社・長瀧寺境内の景観 ながたきはくさんじんじゃ・ちょうりゅうじ けいだいのけいかん	(未指定)	(文化的景観)		岐阜県郡上市
<p>【概要】境内に古代の牛王石、鎌倉時代の石燈籠(国重要文化財)や、厳粛な雰囲気をもつ本殿・拝殿があり、神仏習合の名残を留める長瀧寺も並存し、前近代の良好な景観を残している。例年1月6日、国指定文化財の長滝の延年が舞われる。延年の舞いは能の源流といわれ約700年前から続く。</p>					
31	若宮家住宅 わかみやけじゅうたく	県	建造物		岐阜県郡上市
<p>【概要】白山長滝神社の社家で、長良川上流の民家遺構として貴重である。天明5(1785)年の棟札と、文化8(1811)年の棟札及び居宇普請方諸事覚帳が残される。桁行9.5間、梁間5間、切妻、屋根鉄板葺。長良川上流の民家の一遺構として貴重なものである。</p>					

番号	名称	保護の主体	保護の種別	面積	所在
32	那谷寺本堂 なたでらほんどう	国	重要文化財		石川県小松市
<p>【概要】 平安後期から、白山三ヶ寺の一つとして白山信仰の重要な位置を占め、南北朝以降、白山中宮の伝統を継承した。中世末の一向一揆の兵乱により荒廃したが、加賀藩三代藩主前田利常の庇護により再建された。</p> <p>本堂は大悲閣と呼ばれ、拝殿・唐門・本殿の3棟から成り、禅宗様を用いる。本殿は岩窟の中にあり内部に本尊千手観音を安置する向唐破風付の日光廟式の厨子がある。唐門は向唐破風で柿葺、拝殿は懸崖造りの大規模なもので、檜皮葺である。那谷寺の起源である巖谷を中心にした伽藍となっている。</p>					
33	那谷寺護摩堂 なたでらごまどう	国	重要文化財		石川県小松市
<p>【概要】 護摩堂は、桁行3間、梁行3間、単層で、入母屋造り、平入り、檜皮葺、二軒繁たるきで、1間の向拝をつける。四方に縁を巡らしている。4面の壁板には、躍動する9頭の唐獅子と牡丹の浮彫があり、頭貫の下に、波と菊の図の透欄間を入れて、明り取りにしている。</p> <p>組物は、阿摩組で、その中備には臺股<small>かえるまた</small>を入れて動物を彫っているが、かえる股と欄間には極彩色の跡が残っている。</p> <p>内部は中央に護摩壇を設け、正面に不動明王を安置し、その背の壁板には金箔が施されている。禅宗様を基調にしなが、和様の手法を巧みに折衷させた自由奔放な設計で、桃山時代の華やかな感じを残す建築である。</p>					
34	那谷寺三重塔 なたでらさんじゅうのとう	国	重要文化財		石川県小松市
<p>【概要】 初層中央の四天柱の中に鎌倉時代の胎藏界大日如来を安置し、心柱は二層目から相輪までのびている。禅宗様を基調としており、きわめて安定した外観をもっている。初層が、どっしりと二、三層を受けていて安定感を見せている。また相輪の全高に対する割合が大きいことが姿を美しくしている。初層の柱間の壁板には、護摩堂と同じく、唐獅子と牡丹の浮彫が彫られ、棧唐戸の浮彫とともに華麗である。</p>					
35	那谷寺鐘楼 なたでらしょうろう	国	重要文化財		石川県小松市
<p>【概要】 桁行3間、梁行2間の重層、入母屋造り、檜皮葺の鐘楼。この鐘楼は、袴腰の上に石造の台輪がある。他所の鐘楼と異なって、基礎から石積みを袴腰の上まで築き上げ、石造台輪の下の外側に木造の袴腰を付けているからである。</p> <p>那谷寺の伽藍は、そのほとんどが禅宗様(唐様)を基調として造られているが、この鐘楼だけは、唯一純粋な和様で造られている。</p>					



番号	名称	保護の主体	保護の種別	面積	所在
36	那谷寺書院及び庫裏 なたでらしょいんおよびくり	国	重要文化財		石川県小松市
<p>【概要】 もとは那谷寺の寺坊不動院の建物で、本堂などの建築よりも5年も早く、寛永12(1635)年に建てられている。</p> <p>入母屋造りの銅板葺で、かつては柿葺きであった。土間の天井は塗り込めの壁天井となっていて、それに続く板の間が、炉に切り火を焚いたためにすすけた小屋組が晒しになっているのと対照的である。書院の主室となる「御成の間」は、床と違棚が離れて付けられており、初期の書院造りの姿を残している。</p>					
37	那谷寺庫裏庭園 なたでらくりていえん	国	名勝		石川県小松市
<p>【概要】 那谷寺の庫裏は、本堂よりも古く、寛永12(1635)年の建立で、同時に庭園も築造された。</p> <p>本庭は、書院の裏部から本堂の裏部にかけての北庭で、東部には池があり、中央は平庭で、西部に茶室如是庵があって、書院式露地風の庭園となっている。如是庵から書院裏をつないで東部の池庭へと飛石が打たれ、ところどころに石を立てている。書院の角、北東部に三尊石組手法による配石があって、本庭の主要景観を構成している。また飛石本位の庭でありながら、一部に石組をみせる手法は、江戸初期の書院式露地の特色として注目される。</p>					
38	那谷寺茶室如是庵 なたでらちやしつによぜあん	市	建造物		石川県小松市
<p>【概要】 造営は、書院及び庫裏、庫裏庭園と同時期とされている。加賀藩三代藩主前田利常が隠居後愛用した茶室である。</p> <p>客座は京間1畳、台目1畳という小間の茶室で、草庵風を基にしているものの、躡口が無く、貴人口だけで、又、大きく円窓や連子窓を取り、点前座客座の隅に戸口を設けるなど、異彩を放つ。</p>					
39	那谷寺奇岩遊仙境 なたでらきがんゆうせんきょう	(未指定)	(天然記念物)		石川県小松市
<p>【概要】 そそり立つ奇岩(石英粗面岩と凝灰岩岩盤)に自然の窟がいくつも開口する。山岳修行の一つ参籠行を想起させる自然景観が形成されている。那谷寺の前身が修験との深い関わりの中で成立したことを感じさせる。境内には中世遺構とともに、懸崖造りの本堂を含めて奇岩・岩窟が多数分布し、那谷寺を象徴する歴史的・民俗的な由緒をもつ自然景観を形成している。</p>					
40	白山中居神社境内の景観 はくさんちゅうきょじんじゃけいだいのけいかん	(未指定)	(文化的景観)		岐阜県郡上市
<p>【概要】 参道両側に樹齢800年の老スギの並木が鬱蒼と茂り、注連縄が掛けられた泰澄ゆかりの影向石がある等、白山信仰に係り良好な景観を色濃く残す。また、境内を横断する宮川の清流は神域を一層荘厳なものにしている。井波彫刻が施された本殿、宮川に面した拝殿などの施設は杉の巨木と集落の人々によって豪雪から守られている。その景観は悠久の歴史を感じさせる。</p>					

番号	名称	保護の主体	保護の種別	面積	所在
41	鳥越城跡附二曲城跡 とりごえじょうせき つけたり ふとげじょうせき	国	史跡	286,620㎡	石川県白山市
<p>【概要】 室町時代に加賀地方は百年にわたり一向一揆による世界史上画期的な「百姓ノ持チタル国」が成立した。鳥越城跡は、白山麓の一向一揆の拠点であり、織田信長に抵抗し、天正8(1580)年に陥落した城跡。現在史跡公園として整備されている。また、鳥越城の1.8km南に所在する二曲城跡は、鳥越城陥落後一向一揆宗徒が奪回した城で「最後の砦」とされた。現在、史跡公園化に先駆けて発掘調査中である。</p>					
42	加賀禅定道 かがぜんじょうどう	(未指定)	(史跡)		石川県白山市 岐阜県白川村
<p>【概要】加賀禅定道は、加賀の本宮である白山比咩神社(白山寺)から御前ヶ峰を目指す登拝道で全長62kmに及ぶ。途中、佐羅宮、中宮を経て、尾添から本格的な登山道となる。尾添から御前ヶ峰は全長18kmで禅定道が古い形態で残されている。途中、お壺の水、檜新宮や天池室跡、加賀室跡、四塚などかつての登拝のための水場、宮や室跡、塚が良好な状態で残存し、一部は現在も利用されている。加賀禅定道を含む白山禅定道は平成8(1996)年、文化庁「歴史の道百選」に選定されている。</p>					
43	越前禅定道 えちぜんぜんじょうどう	(未指定)	(史跡)		石川県白山市 福井県勝山市
<p>【概要】越前禅定道は越前馬場の中宮であった平泉寺から御前ヶ峰を目指す登拝道。全長40kmにおよび三禅定道の中では最短距離で白山山頂に達する。かつて道沿いには12の宿(宗教施設)があったとされ、法恩寺山山頂(1,356m)に残されている法恩教寺跡など良好な状態で遺構や行場が確認されている。越前禅定道を含む白山禅定道は平成8(1996)年、文化庁「歴史の道百選」に選定されている。</p>					
44	美濃禅定道 みのぜんじょうどう	(未指定)	(史跡)	石川県白山市・福井県大野市 岐阜県郡上市・高山市・白川村	
<p>【概要】美濃禅定道は美濃馬場の中宮である長滝中宮長瀧寺(長滝白山神社)を基点に檜峠を経て白山御師集落である石徹白を通り、白山中居神社の境内背後より登拝道となる。全長約40kmにおよび、禅定道沿いには、白山信仰に関連する小祠や室跡などの遺構が良好な状態で残る。床並社跡、一ノ瀬社跡、美女下社跡、今清水社跡、神鳩社跡、水呑権現社跡、別山室跡など。</p> <p>美濃禅定道を含む白山禅定道は平成8(1996)年、文化庁「歴史の道百選」に選定されている。</p>					
45	白山山頂遺跡群 はくさんさんちょういせきぐん	(未指定)	(史跡)		石川県白山市 岐阜県白川村
<p>【概要】御前ヶ峰(2,702m)山頂の包蔵地をはじめ、六道堂跡、転法輪窟など学術調査された中では日本最高所の信仰遺跡が標高2,500m以上に立地している。修験者、信徒が宿泊していた室堂跡や積石塚、行者窟、水場、堂社跡が良好に残存している。これらの遺跡からは、独鈷や懸仏、鱈口、和銅鏡、刀子、など9世紀頃からの修験の用具が出土している。</p>					